

令和6年度病床機能報告結果及び 定量基準分析結果について

大崎・栗原区域

令和6年度病床機能報告結果及び定量基準分析結果について 目次

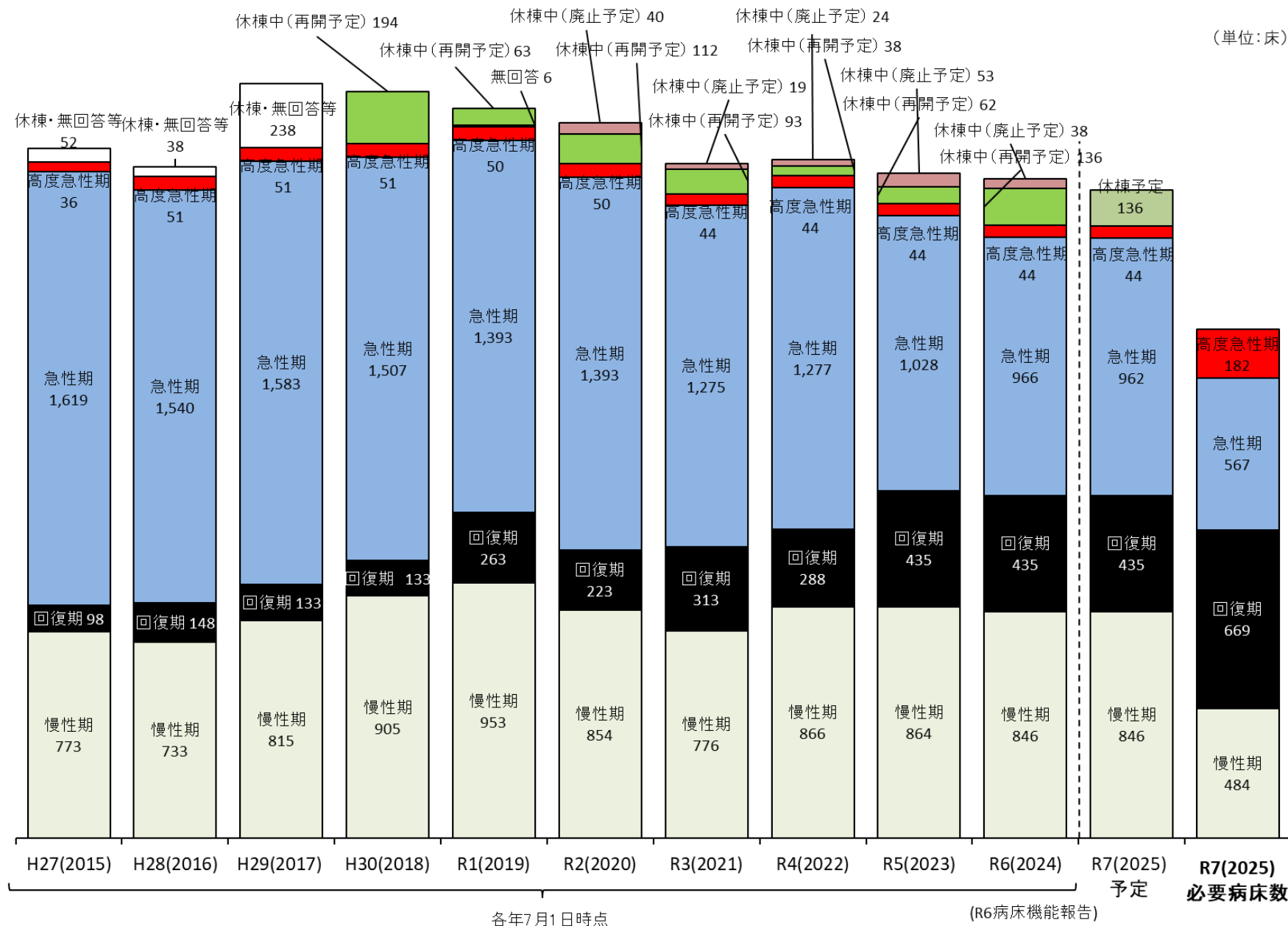
- 1 病床機能報告の経年変化と必要病床数について（大崎・栗原）
- 2 令和6年度病床機能報告の定量基準分析結果について
 - (1) 県全体
 - (2)－1～(2)－4 各医療圏
 - (3) 宮城方式・埼玉方式により急性期から回復期に振り分けられる病床数

（参考資料）

- 1 宮城方式の考え方
- 2 埼玉方式の考え方

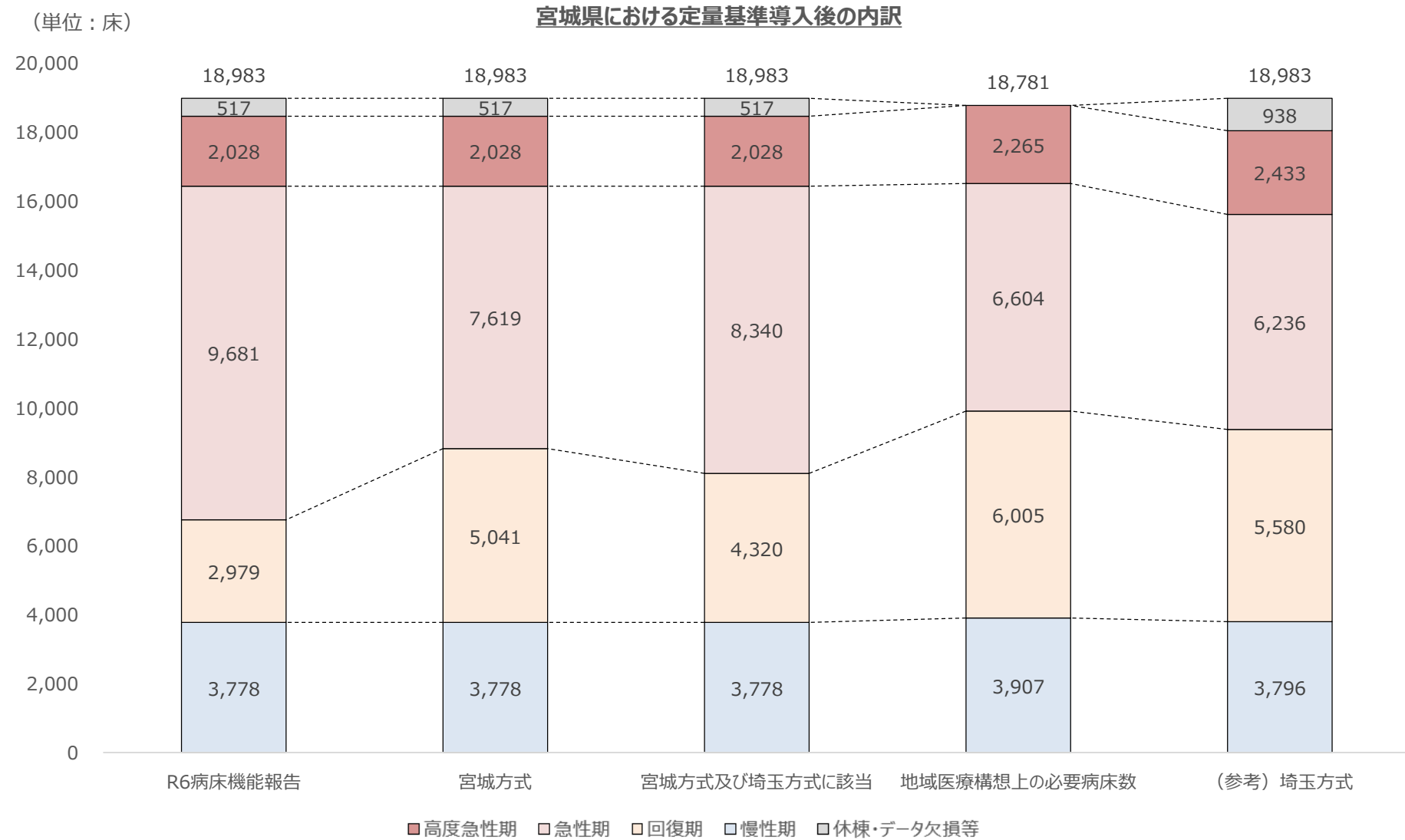
1 病床機能報告の経年変化と必要病床数について（大崎・栗原）

（単位：床）



2 令和6年度病床機能報告の定量基準分析結果について

(1) 県全体



出所：令和6年度病床機能報告（2024年度）

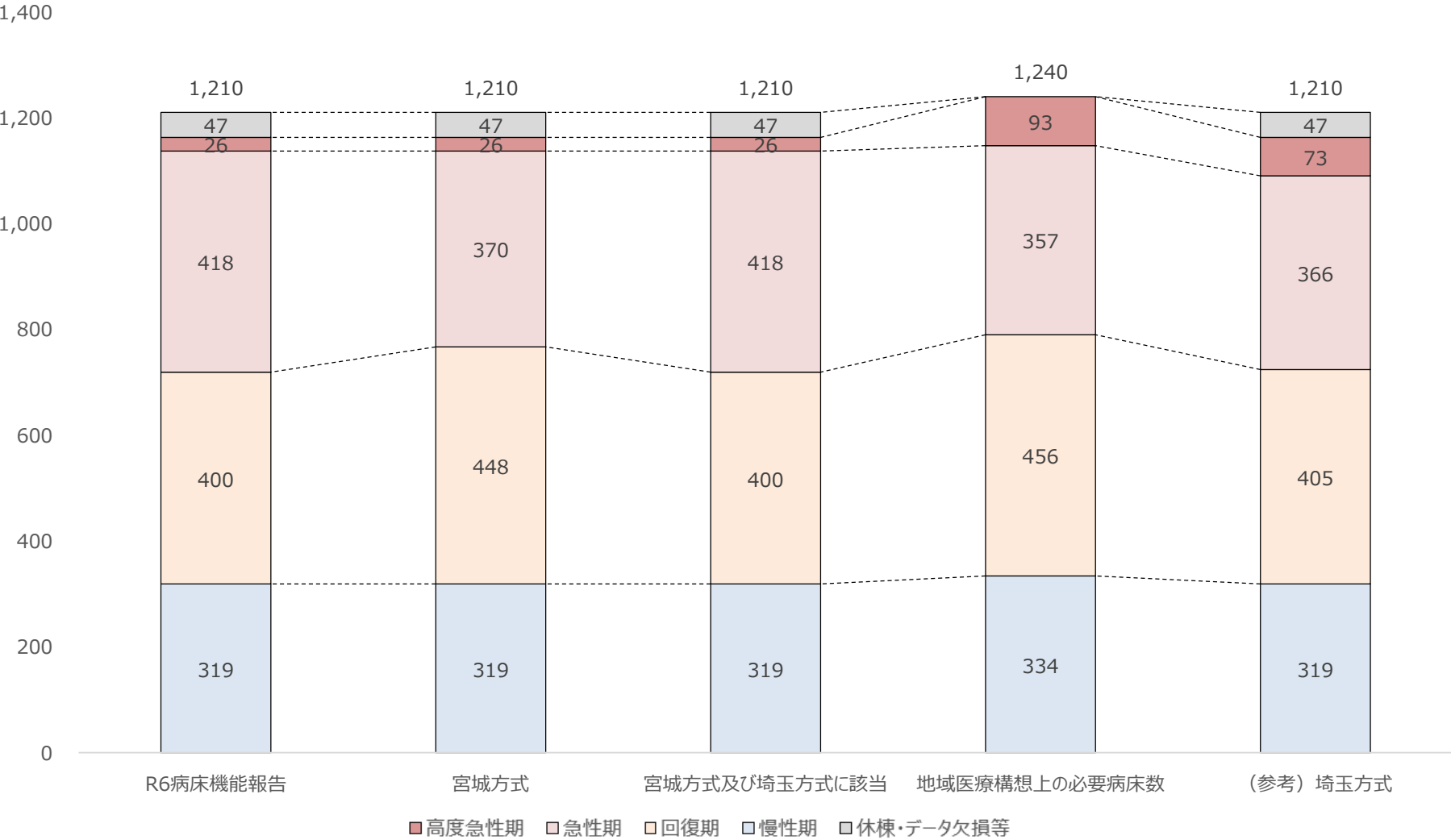
※ 病床機能報告で報告された急性期病床のうち、様式2の提出がない病床については、宮城方式の分析対象外。
※ 「宮城方式及び埼玉方式に該当」は、急性期病床のうち、いずれの方式でも回復期病床に該当する病床を補正したもの。

2 令和6年度病床機能報告の定量基準分析結果について

(2)－1 仙南医療圏

(単位：床)

仙南医療圏における定量基準導入後の内訳

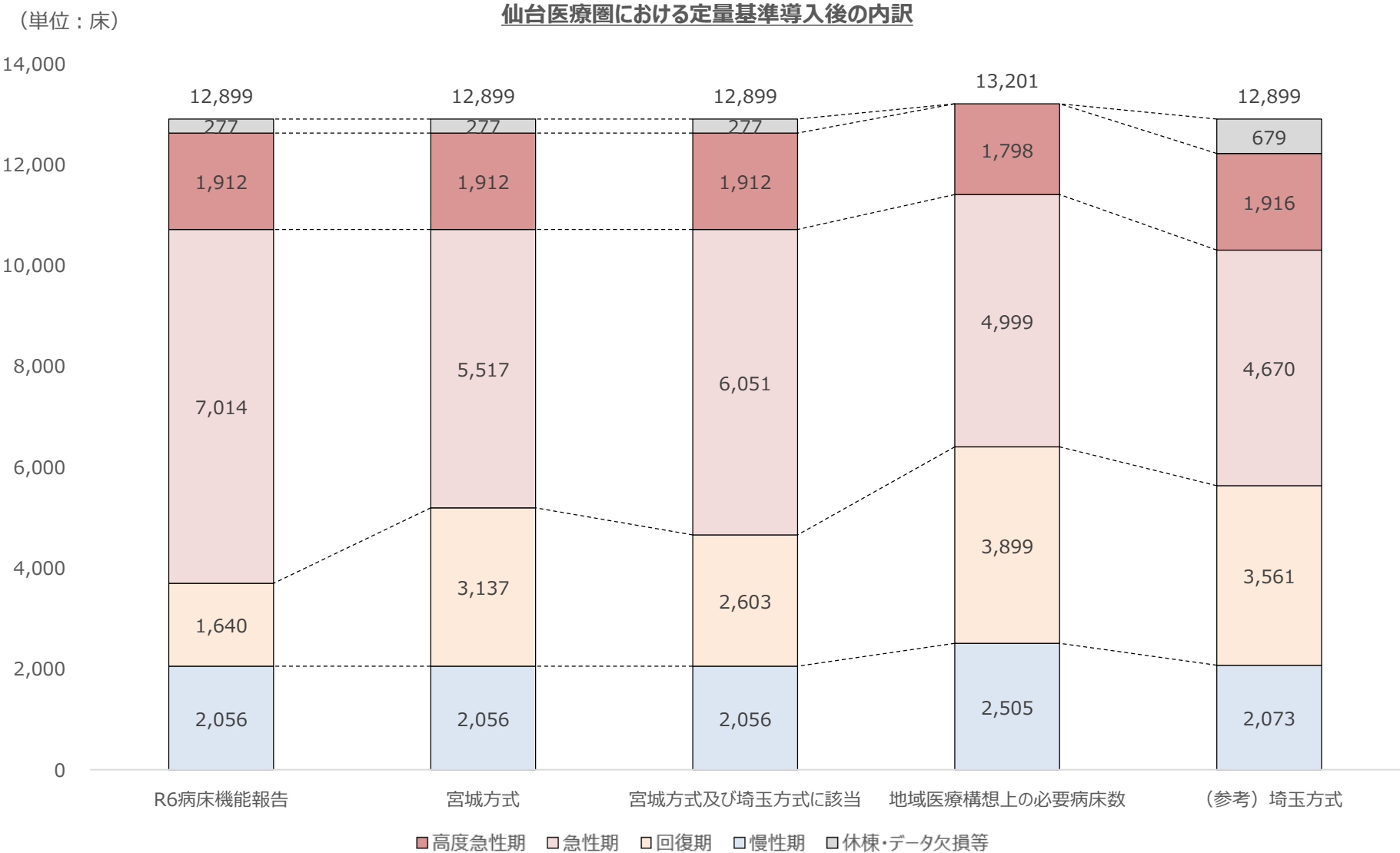


出所：令和6年度病床機能報告（2024年度）

※ 病床機能報告で報告された急性期病床のうち、様式2の提出がない病床については、宮城方式の分析対象外。
※ 「宮城方式及び埼玉方式に該当」は、急性期病床のうち、いずれの方式でも回復期病床に該当する病床を補正したもの。

2 令和6年度病床機能報告の定量基準分析結果について

(2)－2 仙台医療圏

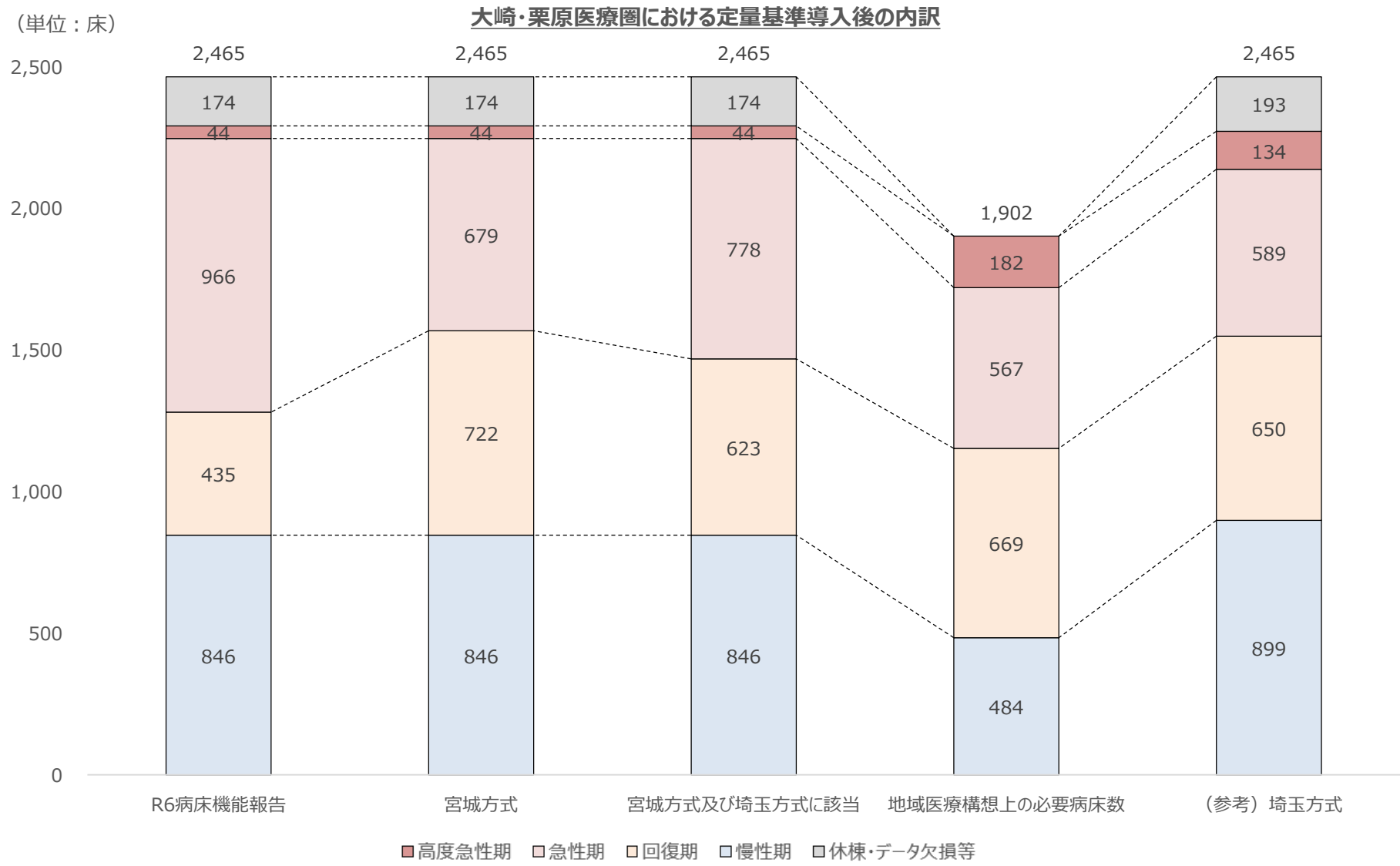


出所：令和6年度病床機能報告（2024年度）

※ 病床機能報告で報告された急性期病床のうち、様式2の提出がない病床については、宮城方式の分析対象外。
※ 「宮城方式及び埼玉方式に該当」は、急性期病床のうち、いずれの方式でも回復期病床に該当する病床を補正したもの。

2 令和6年度病床機能報告の定量基準分析結果について

(2)－3 大崎・栗原医療圏

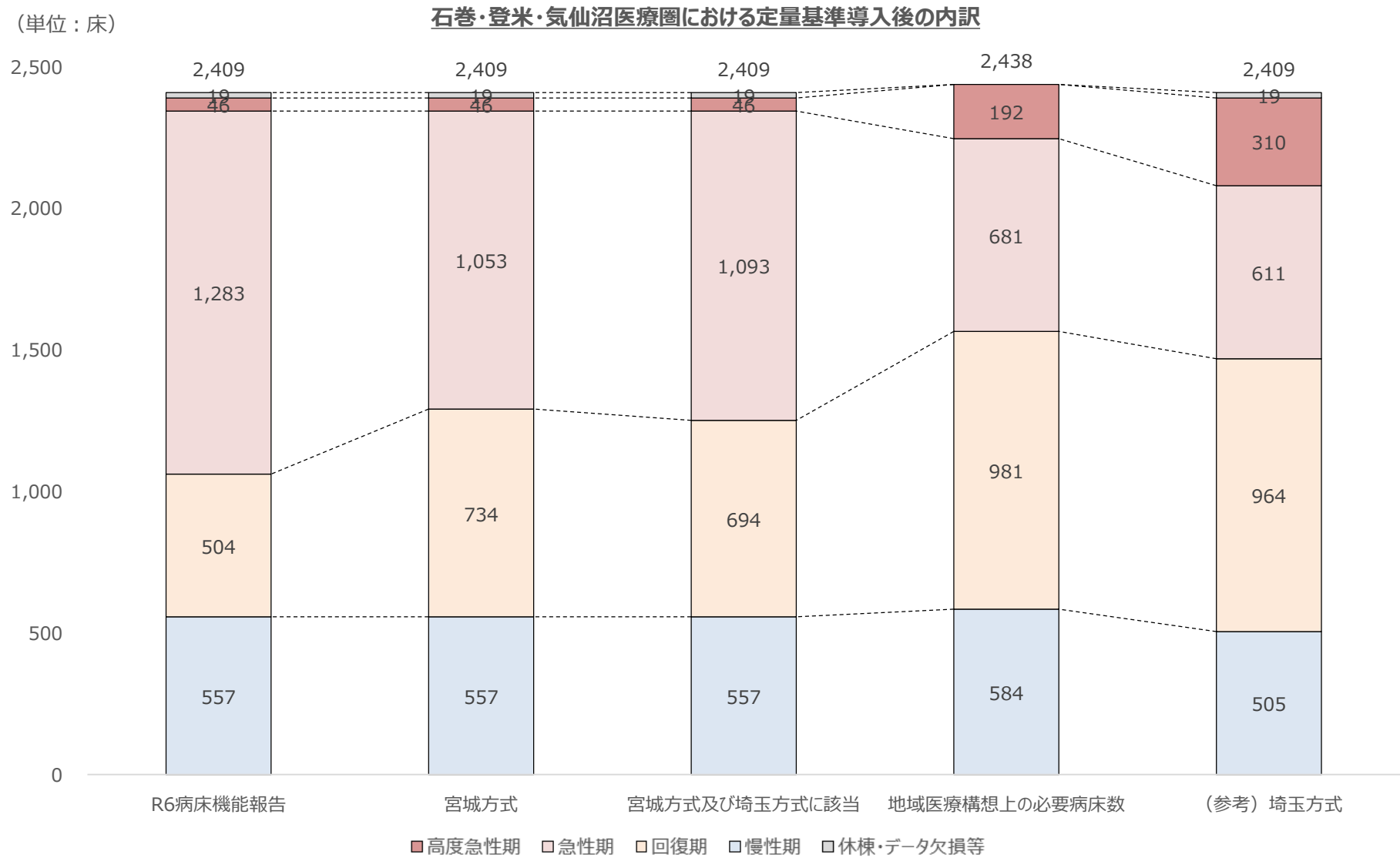


出所：令和6年度病床機能報告（2024年度）

※ 病床機能報告で報告された急性期病床のうち、様式2の提出がない病床については、宮城方式の分析対象外。
※ 「宮城方式及び埼玉方式に該当」は、急性期病床のうち、いずれの方式でも回復期病床に該当する病床を補正したもの。

2 令和6年度病床機能報告の定量基準分析結果について

(2)－4 石巻・登米・気仙沼医療圏



出所：令和6年度病床機能報告(2024年度)

※ 病床機能報告で報告された急性期病床のうち、様式2の提出がない病床については、宮城方式の分析対象外。
※ 「宮城方式及び埼玉方式に該当」は、急性期病床のうち、いずれの方式でも回復期病床に該当する病床を補正したもの。

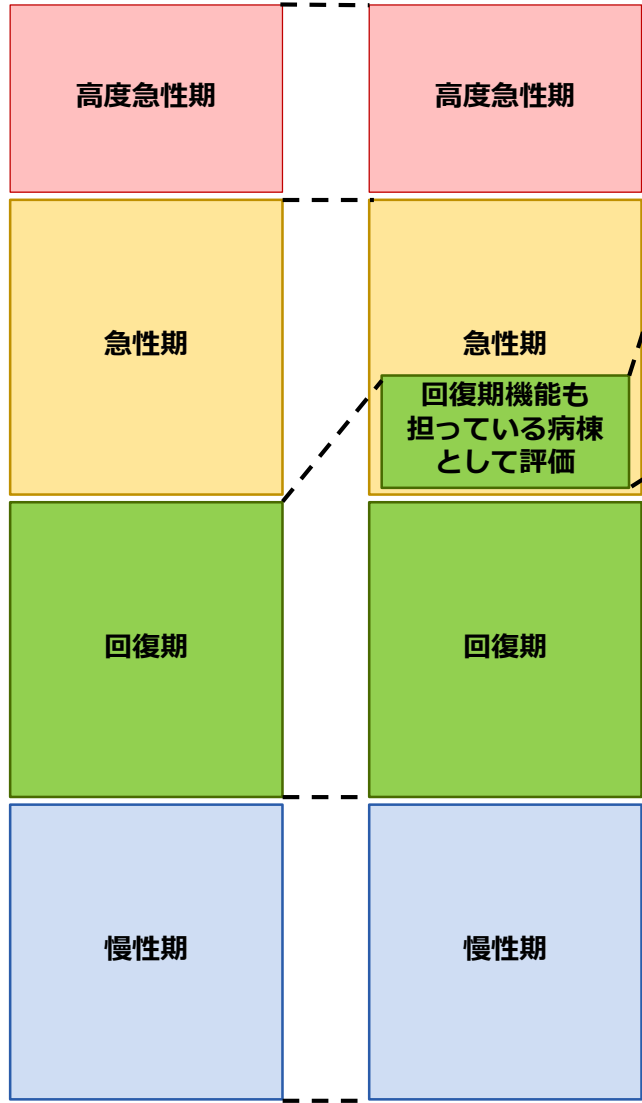
2 令和6年度病床機能報告の定量基準分析結果について

(3) 宮城方式・埼玉方式により急性期から回復期に振り分けられる病床数

医療圏		埼玉方式に該当	宮城方式に該当	埼玉方式及び 宮城方式に該当	埼玉方式又は 宮城方式 いずれかに該当
宮城県	病棟数	69	49	32	86
	病床数	2,670	2,062	1,341	3,391
仙南	病棟数	1	1	0	2
	病床数	5	48	0	53
仙台	病棟数	48	36	23	61
	病床数	1,932	1,497	963	2,466
大崎・栗原	病棟数	9	7	5	11
	病床数	325	287	188	424
石巻・登米・ 気仙沼	病棟数	11	5	4	12
	病床数	408	230	190	448

1 宮城方式の考え方

- 急性期と報告する病棟のうち回復期機能も併せて担っている病棟として、「介護施設等へ退院している患者の割合」「他院からの転入割合」「救急・在宅等支援病床初期加算等の算定実績」のいずれかの基準を満たした場合に評価する。



急性期と報告する病棟のうち回復期機能も併せて担っている病棟として
下記のいずれかを満たした場合に評価

【退棟経路】 介護施設等へ退院している 患者の割合	【入棟経路】 他院からの転入割合	救急・在宅等支援病床初期 加算等の算定実績
10%以上	10%以上	実績あり

(参考) 各指標の評価目的

指標	目的
介護施設等へ退院している患者の割合	退院困難な患者等に対して、介護施設への入所の調整を行っている実績を評価
他院からの転入割合	急性期を脱した患者の受入実績を評価
救急・在宅等支援病床初期加算等の算定実績	急性期医療の後方病床を確保・介護老人保健施設等の入居者等の状態が軽度悪化した際に入院医療を提供できる病床の確保を評価

※病床機能報告で報告された急性期病床のうち、様式 2 の提出がない病床については、宮城方式の分析対象外としています。

2 埼玉方式の考え方

埼玉県病床機能報告定量基準分析の枠組み

- 「ICU→高度急性期」「回復期リハ病棟→回復期」「療養病棟→慢性期」など、**どの医療機能と見なすのかが明らかな入院料の病棟**は、当該医療機能として扱う。
- 特定の医療機能と結びついていない**一般病棟・有床診療所の一般病床・地域包括ケア病棟（周産期・小児以外）**を対象に、具体的な機能の内容に応じて客観的に設定した**区分線1・区分線2**によって、高度急性期/急性期/回復期を区分する。
- 特殊性の強い周産期・小児・緩和ケアは切り分けて考える。

4 機能	大区分					
	主に成人		周産期	小児		緩和ケア
高度急性期	救命救急 ICU SCU HCU	<div> <div>一般病棟</div> <div>有床診療所の一般病床</div> <div>地域包括ケア病棟</div> </div>	MFICU NICU GCU	PICU	小児入院医療管理料1	
急性期			産科の一般病棟 産科の有床診療所	小児入院医療管理料2,3 小児科の急性期一般入院料1 小児科の一般病棟7:1		緩和ケア病棟 (放射線治療あり)
回復期	回復期 リハビリ病棟			小児入院医療管理料4,5 小児科の急性期一般入院料1、 一般病棟7:1以外 小児科の有床診療所		
慢性期	療養病棟 特殊疾患病棟 障害者施設等					緩和ケア病棟 (放射線治療なし)

具体的な機能に応じて区分線を引く

出典：埼玉県令和6年度地域医療構想推進会議資料

2 埼玉方式の考え方

- 厚労省が高度急性期・急性期に関連する項目として挙げている「幅広い手術の実施状況」「がん・脳卒中・心血管疾患等の治療状況」「重症患者への対応状況」「救急医療の実施状況」「全身管理の状況」に係る枠組みで、病床機能報告の報告項目を参考に閾値を設定している。

